

日本史および古墳時代の区分

日本史時代区分(諸説がある)

時代区分		年代	年代の定義
先史時代	旧石器時代	数十万年前～約1万年前	石器の出現から農耕の開始までの時代
	縄文時代	約14000年前～紀元前4世紀	縄文土器が使用された時代を示す呼称であったが、農耕狩猟採集経済の時代
	弥生時代	紀元前4世紀～3世紀	弥生土器が使用された時代を示す呼称であったが、水稲農耕を主とした経済の時代
古代	古墳時代	3世紀中頃～7世紀頃	古墳、特に前方後円墳が盛んに造られた時代
	飛鳥時代	6世紀末～710年	飛鳥に都城が置かれていた崇峻天皇5年(592年)～
	奈良時代	710年～794年	平城京への遷都～
	平安時代	794年～1185年	平安京への遷都～
中世	鎌倉時代	1185年～1333年	守護・地頭の設置*1～
	建武の新政	1334年～1335年	後醍醐天皇による親政の開始～
	南北朝時代	1336年～1392年	後醍醐天皇(南朝)の吉野行宮～後小松天皇(北朝)に譲位
	室町時代	1336年～1493年	足利尊氏による建武式目の制定～
	戦国時代	1493年～1573年	明応の政変～
近世	安土桃山時代 *2	1573年～1603年	第15代将軍・足利義昭が織田信長によって放逐～
	江戸時代	1603年～1868年	徳川家康が征夷大将軍に任命～
近代	明治維新 ～第二次世界大戦終了	1868年～1945年	明治天皇の即位(明治元年)*3～
現代	第二次世界大戦終了後	1945年～	第二次世界大戦終了後～

*1 征夷大将軍に任命された建久3年(1192)からとする説もある *2 中世に含める説もある *3 慶応3年(1867)の大政奉還・王政復古からとする説もある

古墳時代区分(諸説がある)

古墳時代出現期	3世紀半ば過ぎには、出現期古墳が現れる。前方部が機形に開いているもので、濠が認められていないものがある。中には、自然の山を利用しているものもあり、最古級の古墳に多いと言われている。埴輪が確認されていないのが特徴である。葺石なども造り方が定まっていらないようにも思われる。 福岡県の石塚山古墳(邪馬台国九州説では、女王卑弥呼の墓と目される、130m)
古墳時代前期	3世紀の後半には、西日本各地に特殊な壺形土器、器台形土器を伴った墳丘墓(首長墓)が現れる。その後、前方後円墳のさきがけと位置付けられる円墳、出雲文化圏特有の四隅突出型墳から変化した大型方墳が代表的である。それから少し経ち、奈良盆地に大王陵クラス的大型前方後円墳の建設が集中した。 奈良県の 箸墓古墳 (邪馬台国畿内説では、女王卑弥呼の墓と目される、280mの前方後円墳)、奈良県の 黒塚古墳 (130m、機形)
古墳時代中期	5世紀の初頭、王墓クラス的大型前方後円墳が奈良盆地から河内平野に移り、さらに巨大化した人物埴輪が現れた。5世紀半ばになり、畿内的大型古墳の竪穴式石室が狭長なものから幅広なものになり、長持型石棺を納めるようになった。各地に巨大古墳が出現するようになり、副葬品に、馬具・甲冑・刀などの軍事的なものが多くなった。 5世紀後半には、北部九州と畿内の古墳に横穴式石室が採用されるものが増えてきた。5世紀の終わりには、畿内の一部に先進的な群集墳が現れ、大型古墳に家型石棺が取り入れられるようになった。南東九州地方や北部九州に地下式横穴墓が造られ始め、また、装飾古墳が出現し出した。 大阪府の 大仙古墳 (伝仁徳天皇陵、525m)、大阪府の菅田御廟山古墳(伝応神天皇陵、420m)、東京都の 野毛大塚古墳 (帆立貝式古墳)
古墳時代後期	6世紀の前半には、西日本の古墳に横穴式石室が盛んに造られるようになった。関東地方にも横穴式石室を持つ古墳が現れ、北部九州では石人・石馬が急速に衰退した。6世紀後半になり、北部九州で装飾古墳が盛行。埴輪が畿内で衰退したことで、関東で盛行するようになった。西日本で群集墳が盛んに造られた。 大阪府の敏達陵古墳(93m、大王陵最後の前方後円墳)
古墳時代終末期	全国的に6世紀の末までに前方後円墳が造られなくなり、方墳や円墳、八角墳がもっぱら築造されるようになる。この時期の古墳を終末期古墳という。646年の薄葬令(身分に応じて墳墓の規模などを制限した勅令。)で古墳時代が事実上終わりを告げた後も、東北地方や北海道では墳丘墓の築造が続き末期古墳と呼ばれる。 奈良県の 石舞台古墳 (蘇我馬子の墓と推測、一辺約50mの方墳、全長19.1mの横穴式石室)

墳形名称	平面デザイン	立体デザイン	説 明	主要古墳
前方後円墳 ぜんぽうえんふん			古墳時代を象徴する墳形。 死者を葬る部分を円形につくり、その前方部に 方形の突き出しを形成。(撥型を含む) 近畿を中心に各地に広がる。	大仙(陵)古墳 箸墓古墳 五色塚古墳
前方後方墳 ぜんぽうほうふん			前方後円墳の後円部を方形にしたもの。 比較的前期に多く東海地方に顕著に見られる。	西山古墳 大安場1号墳 山代二子塚古墳
円 墳 えんふん			古墳時代を通じ、日本全国に分布。 後期には、群集墳を形成。	丸墓山古墳 八幡山古墳
方 墳 ほうふん			円墳や前方後円墳よりも後の7世紀に現れる。	山田高松古墳(推古陵) 春日向山古墳(用命陵)
帆立貝式古墳 ぼたてがひしきこふん			前方後円墳のうち、方形の突出部が著しく短いもの。	三吉石塚古墳 野毛大塚古墳
双方中円墳 そうほう ちゅうえんふん			円丘の両側に方形の突出部を持つ。 比較的前期に見られる。	櫛山古墳
八角墳 はっかくふん			八角形の古墳。畿内の大王のみにゆるされた墳形。 (近年 畿内以外の豪族墓でも見つかる)	野口王墓古墳 御廟野古墳
六角墳 ろっかくふん			天皇に次ぐ位(皇太子・皇子)の人物の墓 全国で3基のみ認められている。	マルコ山古墳 塩野六角墳 奥池3号墳
柄鏡式古墳 えかがみしきこふん			前方後円墳のうち前方部が細くなり くびれ部幅と前方部幅が変わらないもの。 前方部の高さは後円部よりもかなり低い。	(桜井)茶臼山古墳
双円墳 そうえんふん			二基の円墳を連結した形の古墳。	金山古墳
上円下方墳 じょうえんかほうふん			四角形の方墳の上に円墳を載せた構造。 確認されたのは、全国で4基のみ。 古墳時代後期7～8世紀につくられた。	府中熊野神社古墳 石のカラト古墳
四隅突出墳 よすみ とっしゅつふん			弥生時代から古墳時代の過渡期 方墳で四角が突出した特異な形。 西日本の日本海側に多く見られる。	西谷3号墳